

# 平成 19 年度第 1 回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成 19 年 10 月 30 日 (火) 13:30～15:30

場 所 千葉県立中央博物館会議室

## 出席者 (委 員)

明石委員《議長》 小川委員 小野委員 川津委員 栗原委員

西村委員 吉野委員 松浦委員 水島委員 (博物館・文化財課)

山口文化財課長兼上総博物館事務取扱 眞田美術館長 佐久間中央博物館長

佐久間現代産業科学館長 阪田関宿城博物館長 吉本房総のむら館長 渡辺安房博物館長

## 日 程

開 会

文化財課長あいさつ

博物館あいさつ

議 事

(1) 各博物館の事業について

(2) 平成 18 年度県立博物館外部評価の概要について

(3) 諮問事項

「博物館における地域振興のあり方について」

(4) その他

その他

閉 会

## <文化財課長あいさつ>

県立博物館の現状、博物館評価制度、地域振興のあり方について

## <博物館あいさつ>

博物館法の改正における登録制度、学芸員の資格制度の課題、生物多様性千葉県戦略と中央博物館の課題

## <議 事>

(1) 各博物館の事業について

各館長より事業概要について説明

## [質疑・意見]

委 員:

千葉市のきぼーるが開館したが、現代産業科学館に影響は生じていないか。

博 物 館:

現代産業科学館は市川市にあるため、利用者は競合しないのではないかと。お互いの連携を考えている。

委 員:

どちらかという中央博物館が影響を受け、小・中学校の団体が減るのではないか。

**博物館：**

中央博物館・美術館・きぼーる・郷土博物館等と定期的に会議を持ち、お互いに連携をとり、相乗効果による利用促進を目指す。

**委員：**

ほとんどの博物館が月曜日休館となっているが、学校と連携がとれるのか。

**文化財課：**

設備・展示品のメンテ等を行うため、また職員が土・日の代休をとるために月曜日を休館としている。夏休みや企画展開催中は休まず開館することもある。

**委員：**

一箇所くらい月曜日以外を休館にしてもよいのではないか。

**文化財課：**

地域振興の点からも、月曜日以外の休館を考えていきたい。

**委員：**

房総のむらは民間の発想により、効果があったことは何か。

**博物館：**

交通関連業者によると、ただ観光するのではなく、行って何かができる場所が喜ばれている。

韓国・台湾等の海外からの観光客も、飛行機の待ち時間などに寄ってくれる。体験もので作った品物を販売することができるなど、柔軟性がでたことにより来館者から喜ばれるようになった。

**委員：**

安房博物館は館山市に移譲されるのか。

**文化財課：**

館山市と地域活性のため移譲を含め検討しているが、具体的には決まっていない。

## (2) 平成18年度県立博物館外部評価の概要について

文化財課より説明

ホームページにて公開中であり、前回の協議会での意見をもとに、年2回の全体会を3回に変更した。委員に若い世代の大学院生が加入した。評価を5段階から4段階に変更すると共に、博物館の対応欄を作成し、点数等の公開方法の工夫等の改善を行った。

## (3) 諮問事項「博物館における地域振興のあり方について」

美術館長より諮問事項説明

**[質疑・意見]**

**議長：**

3月いっぱい、答申案をまとめたい。

**委員：**

環境問題・地球温暖化・生物多様性が国家的・地域的にも非常に重要な問題となっている。県民会議の提言が作成され研究情報センターの設立が提唱されているが、これには博物館の持つ力を利用すべきである。このセンターには、県立博物館を軸に、教室博物館をサテライトすることが必要である。

**委員：**

博物館に行っても解説してくれる人がいないと理解できない。研究員以外でも解説してくれる人が回ってくれるシステムがほしい。

**博物館：**

ボランティア制度など、具体的に提案して盛り込めば弾みがつく。

**委員：**

安房博物館の海の鑑定団により、県外の多くの方に館山を好きになってもらうことができた。貝細工等千葉県海の知恵をPRし情報を伝えることで、地域振興になると思う。

**博物館：**

県内より東京の学校からの来館が多い。地域の人たちも集まるPRを進める。

**委員：**

房総のむらの海外からの団体客への説明はどのようにしているのか。

**博物館：**

英語・中国語・韓国語のパンフを用意してある。外国語を話せる解説員もいる。栄町に「ガイドこんにちは」というボランティアの方が15名いる。

**委員：**

地域振興には、海外からの観光客はパワーになる。

**委員：**

現代産業科学館は工場見学等、現場と連携しての集客の工夫はしているのか。

**博物館：**

友の会によるツアーイベントはあるが、定期的な企業との連携はない。

**委員：**

今、工場見学が面白いらしい。京葉工業地帯を利用してはどうか。

現代産業科学館には、技術員という専門家がいる。地域の企業・マスコミとの共催事業を、博物館を使用して行い、更に外部資金の獲得も併せて行ってはどうか。

展示内容が良ければ人が集まるという時代ではない。

旭山動物園等公共の人気スポットに担当者を出張見学させ、その理由を発表してはどうか。

**委員：**

仙台市科学館では、蛙・蟬等がいつどこで鳴き見られたかを、住民がネットに登録し活用している。自然誌系だけでなく歴史的なものも含め、地元の方の情報・観察データを活用できないか。

展示解説を学芸員が行うことで、研究・資料整理に支障が生じる可能性もあるので、ボランティア・NPO等の解説できる人を活用してはどうか。

生物多様性の組織は情報に力を入れ、どういう戦略でいくのか良く整理し、博物館ではないのに博物館の仕事をするような問題が生じないようにする必要がある。

**委員：**

ミツバチ前線等、個々の方からの情報をネットで集め、センター化を中央博で行ってはどうか。

**委員：**

京葉工業地帯は、教科書には載っていないが副読本には載っている。

**委員：**

社会と理科の副読本の作成に、博物館が参加してはどうか。

**委員：**

海で揉まれたガラスの破片拾い等、貝以外にも千葉をPRできるものがあるのではないか。

美術館講座は一つの高校だけでなく、他の高校にも同様の体験をさせてあげる機会を与えてはどうか。

**博物館：**

成果を元に、次のステージを模索している。

**委員：**

高校はインターンシップとして、希望者を体験させることができる。

旭山動物園は、確かに工夫しているが、メディア戦略だと思う。メディアを上手く使っていく。スポンサーとして企業に協力依頼が無理ならば、厚生として企業にパスポートを購入してもらってはどうか。

**委 員：**

成功したクールビズと失敗した省エネルギーの発想のように、チームを作ってメディア媒体と連携しながら打って出るという戦略もあるのではないか。

伝統芸能が廃れつつある。裏方の人材育成・伝承の方法・保存の技術を地域振興として行う必要がある。

**議 長：**

1月下旬、第2回目を開催予定。

3月末に、答申を出す。

終 了